

運営費研究

認知症ケアレジストリ研究 (BPSDスポット調査)

ケアレジストリ研究に取り組むことによるケア改善効果についてアンケート調査で検証

目的

認知症ケアレジストリ研究は、BPSDスポット調査（以下、スポット調査）に取り組むことによる効果と、今後の研究の方向性を明らかにすることを目的とした。

概要

主な事業内容

これまでに調査協力の得られた施設・事業所の調査担当者に対し、郵送法によりアンケート調査票を送付し回答を求めた。調査期間は令和4年2月8日～2月28日であった。調査協力者には1,000円を謝礼として支払った。本調査への協力は任意とし、協力しないことによる不利益はないことをアンケートの説明用紙に記載した。また、調査協力は途中取り消しができることを説明した。調査への同意は回答を持って代えることとした。以上については認知症介護研究・研修東京センター倫理委員会の承認を得て行った。

主な事業結果・成果

189施設に調査票を配布し、75件の回答を得た（回収率39.7%）そのうち、前評価・後評価が完了できていた49件を主な分析対象とした。単純集計では、**38件（77.6%）がスポット調査における前評価の結果を活用しケアを実施しており、40件（81.7%）が、スポット調査のケア方針の検討・決定・周知過程を複数のスタッフで連携し実施していた。**

調査の波及効果について検討するために、スタッフの変化（12項目）、ケアチームの変化（14項目）、施設・事業所の変化（5項目）について、それぞれクラスター分析（ward法）を行ったところ、スタッフの変化は「認知症ケアのポイントの理解」「新たな視点のケア」「BPSDや実施したケアの分析」「BPSDを数値化する意義」の4群に分類され、ケアチームの変化については、「評価やスポット調査項目の活用」「ケア手法の情報共有」の2群に分類された。更に、施設・事業所の変化は「生活の安定化」「活動と参加」の2群に分類された。

スポット調査において、「前評価の結果を活用しケアを実施しており、ケア方針の検討・決定・周知過程を複数のスタッフで連携し実施している群」をPDCAサイクルとチームアプローチが展開されている群と仮定し、PDCAサイクルとチームアプローチの展開の有無による、スポット調査の波及効果の差について、Mann-WhitneyのU検定を実施し、効果量を算出した。結果、スタッフの変化における「認知症ケアのポイントの理解」の項目では、有意差は認めなかったが、効果量小であった（ $p=0.069$ ,  $r=0.26$ ）。「**新たな視点のケア**」の項目では、PDCAとチームアプローチなし群中央値6.0[第1四分位6.0-第3四分位8.0]点と比較し、あり群は**8.0[7.0-8.0]点で有意に値が高く、効果量中であった**（ $p=0.020$ ,  $r=0.33$ ）。「BPSDや実施したケアの分析」の項目では、有意差は認めなかったが、効果量小であった（ $p=0.056$ ,  $r=0.27$ ）。「BPSDを数値化する意義」の項目では、有意差は認めなかったが、効果量小であった（ $p=0.246$ ,  $r=0.17$ ）（表1）。また、ケアチームの変化における「**ケア手法の情報共有**」の項目では、PDCAとチームアプローチなし群**2.0[1.0-3.0]点と比較し、あり群は3.0[2.0-4.0]点で有意に値が高く、効果量中であった**（ $p=0.025$ ,  $r=0.32$ ）（表2）。

表1 BPSDスポット調査におけるスタッフの変化

項目	あり n=34	なし n=15	p値	効果量 r
認知症ケアのポイントの理解, 4-20点	16.0[14.0-17.0]	15.0[13.0-16.0]	0.069	0.26
新たな視点のケア, 2-10点	8.0[7.0-8.0]	6.0[6.0-8.0]	0.020	0.33
BPSDや実施したケアの分析, 4-20点	17.0[15.0-18.0] [1]	15.0[14.0-17.0]	0.056	0.27
BPSDを数値化する意義, 2-10点	7.0[6.0-8.0]	7.0[6.0-7.0]	0.246	0.17

値は中央値[四分位範囲]を示す [ ]は欠損数を示す 得点が高いほど良い  
 Mann-Whitney U検定

表2 BPSDスポット調査におけるケアチームの変化

項目	あり n=34	なし n=15	p値	効果量 r
ケア手法の情報共有, 0-4点	3.0[2.0-4.0]	2.0[1.0-3.0]	0.025	0.32
評価やスポット調査項目の活用, 0-10点	2.0[1.8-4.0]	2.0[1.0-3.0]	0.529	0.09

値は中央値[四分位範囲]を示す Mann-Whitney U検定得点が高いほど良い

今回の調査結果から、**BPSDスポット調査によりBPSDケアに取り組むプロセスが、PDCAサイクル及びチームアプローチを促進させ、新たな視点のケアやケア手法の情報共有などのケアの質を向上させている可能性が示唆**された。今後、調査プロセスや構造を精査し、BPSDを軽減するための介入手法として、BPSDスポット調査を再構築することを目指す。認知症施策等へ当該調査を活用することができるよう検討を進めることも可能であると考えます。

事業の成果物は、  
 DCネットから

検索